偕楽園と弘道館の震災と復興

東日本大震災

「水戸の梅まつり」開催中の平成23年（2011）3月11日14時46分、東北地方の東方沖70kmの太平洋の海底で、マグニチュード9.0の大地震が発生しました。この地震により水戸地方は震度６弱の大きな地震に襲われて偕楽園も弘道館も大きな被害をうけましたが、元の状態にまで、無事に復興されました。

偕楽園の震災と復興

偕楽園の復旧工事は、茨城県により実施され、11ヶ月後の翌年2月7日に完了し、水戸の梅まつり前に復興し、開園しました。

好文亭

好文亭は昭和20年(1945)８月2日の水戸空襲で焼失、昭和33年に復元されましたが、奥御殿は昭和44年(1969)落雷によりふたたび焼失しその後復元されました。震災では、内壁外壁の剥離・落下・ひび割れ、建具（雨戸・襖戸・板戸など）に損傷が生じました。

被災時の好文亭の外壁

修復された好文亭の外壁

黄土の採取

竹小舞の編み作業

黄土の上塗り

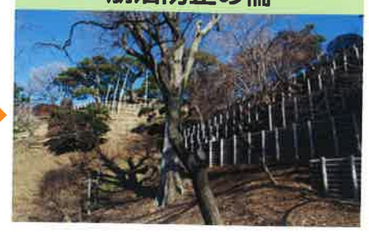
復旧にあたっては伝統的な技法と原材料選びなどが重視されました。好文亭の土壁に使われた竹小舞は真竹が使用され、上塗りに使われた黄土は偕楽園付近（備前町）の斜面より採取されました。

偕楽園南崖

偕楽園の南崖では法面や園路に崩れや亀裂が生じ、また土留木柵に損傷をうけました。

被災時のひびわれ

崩落防止の柵



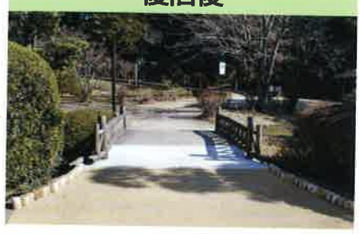
見晴し広場の南崖は約120mにわたり多数の亀裂が生じました。崩落防止を図るため鋼管杭を打ち込むなどの方法で、従来の地形のまま復旧されました。

偕楽園の梅桜橋側

吐玉泉下の梅桜橋側では、液状化・地盤沈下が生じました。

被災時

復旧後



橋の取付け部に地盤沈下による段差が生じました。

偕楽園の表示柱も傾斜してしまいました。

地下に埋設されている上下水道も被災をうけました。

桜川駐車場でも地盤沈下があり、段差亀裂が生じました。

見晴亭の開設

東門の付近に見晴亭が新設されました。

市民有志は、郷土の誇りである偕楽園・弘道館を１日でも早く復旧そして復興させようと「偕楽園・弘道館復興支援の会」が結成され、募金活動が行なわれました。１万６千余名から１億４千５百万円余の義援金が寄せられました。これら一連の活動は「民と偕に楽しむ」との徳川斉昭公（烈公）の偕楽園創設の理想が「市民と偕に復興する」として現代に蘇ったものと、この活動を記念して見晴亭が新設され、各種市民団体などに活用されています。